

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 1958年スワロフ日食の清水実氏の写真—その2—**

アーカイブ新聞第974号に「1958年スワロフ日食の清水実氏の写真—その1—」という記事を書いた。今回はその第2弾である。ここで清水実氏を紹介するのも奇妙だが、清水実氏は東京生まれで、東京工業専門学校(現在の千葉大学工学部)を卒業され、1948年4月に東京天文台に入った筆者の大先輩である。1960年に開所した岡山天体物理観測所で188cm望遠鏡の立ち上げをやっておられ、筆者は1961年から5年間清水実氏の薫陶を受けた。清水実氏は、岡山天体物理観測所に移る前は、三鷹の太陽塔望遠鏡で仕事をされ、第10代台長をされた末元善三郎先生と一緒に仕事をされていた。末元先生は太陽の研究者であったことから、清水さんは末元先生と日食観測に何度も行かれたのである。その1回がスワロフ日食であった。

アーカイブ新聞第974号では、スワロフ島に向かう船旅の赤道祭までの写真48枚を載せた。今回はスワロフ島に到着するところから上陸のころの写真46枚である。



写真 49



写真 50



写真 51



写真 52

写真 49、50 は目的の島に近づいたころの島の遠望であろうか、写真 51、52 は島に近づいた船の甲板の様子らしい。写真 53 はアウトリガーの付いた小舟が近づいたところ。



写真 53



写真 54



写真 55



写真 56



写真 57



写真 58

写真 55～58 のページには上陸とあり、写真 56 には出迎えの鈴なりの人たちという脚注がついていた。



写真 59



写真 60

写真 59 には山下、加藤、日江井の各氏が、写真 60 には加藤さんが写っている。



写真 61



写真 62

写真 61 には田鍋さん、写真 62~64 は歓迎のダンスの様子であろうか。



写真 63



写真 64

写真 65 のネクタイ姿は左が佐藤直宣氏、右が田鍋浩義氏であり、写真 66 のネクタイ姿は、左が清水実氏、右が田鍋浩義氏である。



写真 65



写真 66



写真 67

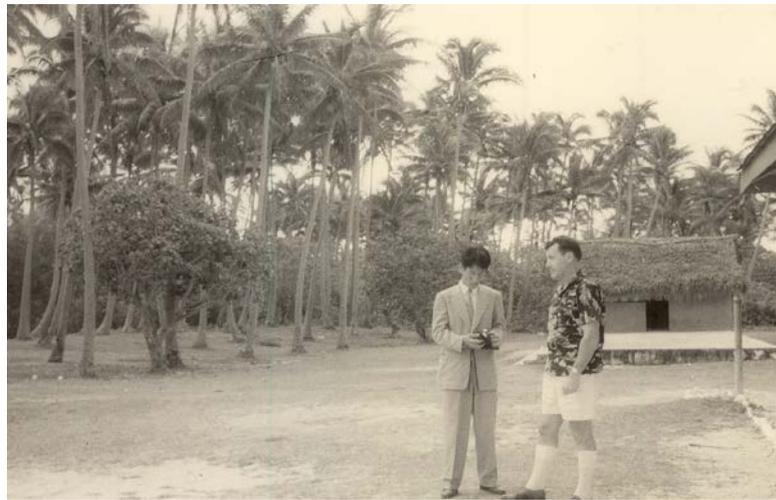


写真 68

スワロフ島着
おしよ丸
十一時五分 日本時間 二十四日午 入 上陸地点のアンカレン島 (南
緯七時五分) 日食観測地のス 緯三度二五分、西経一六三度五
ワロフ島に到着した。同船は南 緯三度から西方向に三時離れ、海上
聯合白から内火艇のハントキ ーに降され、無線探測内に進
出。おしよ丸は二十三午前

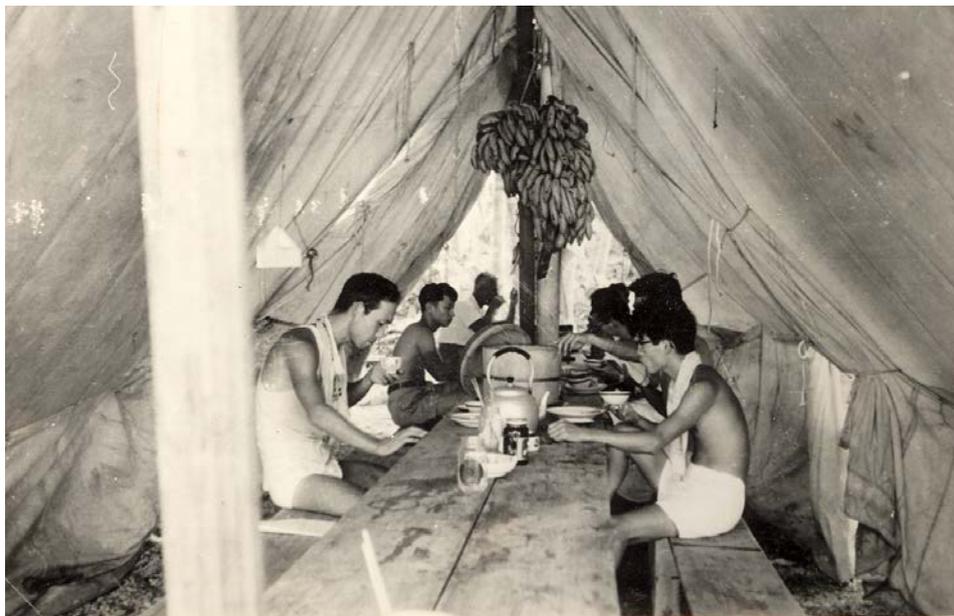


写真 69

写真 70

写真 69 は、日食観測隊がスワロフ島に着いたことを報じる新聞記事である。



写真 71



写真 72



写真 73

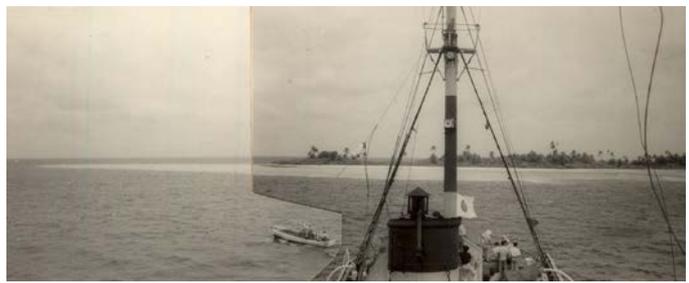


写真 74



写真 75



写真 76



写真 77



写真 78



写真 79



写真 80



写真 81



写真 82



写真 83



写真 84



写真 85



写真 86 左から 3 人目は末元先生

写真 71～86 は、スワロフ島に上陸のころの写真で、順不同になっているようだが、上陸記念写真のようなものもある。



写真 87 上陸の式典



写真 88 こちら向きは末元先生



写真 89 田鍋さん、加藤さんが見える



写真 90 上陸を祝って乾杯



写真 91 テントでくつろぐ隊員

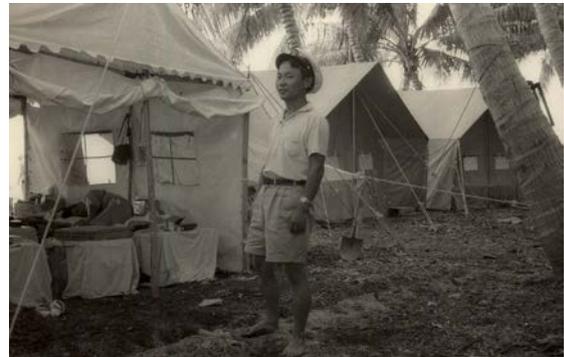


写真 92 テント脇に立つ清水さん



写真 93 末元先生とヤシガニを持つ加藤さん



写真 94 ヤシガニ

今回は、スワロフ島に上陸したころの写真を載せた。－つづく－

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp